

第4学年〇組 道徳科学習指導案

令和〇年〇月〇日(〇) 第〇校時
児童数 男子〇名 女子〇名 計〇名
授業者 〇〇 〇〇

- 1 主題名 かかわりの中での生命 [内容項目 D 生命の尊さ]
2 ねらい 多くの人々の支えによって生命が成り立つことを知るとともに、与えられた生命を一生懸命に生きる心情を育てる。

教材名 「わたしのいのち」 (出典「みんなの道徳 4年」学研)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校3学年及び4学年の指導の観点は、「生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。」である。生命を大切にし尊重することは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の表れと言える。ここでいう生命は、連続性や有限性を有する生物的・身体的生命、さらには人間の力を超えた畏敬されるべき生命として捉えている。この内容項目は、主として人間の生命の尊さについて考えを深めることが中心になるが、生きているもの全ての生命の尊さも大切に考えなければならない。生命の尊さを概念的な言葉での理解とともに、自己との関わりの中で、生きることのすばらしさや生命の尊さを考え、自覚を深められるように指導することが求められる。そのためには、生命の尊さについて考えを深めていくよう指導することが大切である。生命のかけがえのなさは様々な側面から考えられる。家族や社会的な関わりの中での生命や、自然の中での生命、さらには、生死や生き方に関わる生命の尊厳など、発達の段階を考慮しながら計画的・発展的に指導し、様々な側面から生命の尊さについての考えを深めていくことが重要である。

指導にあたっては、生命は唯一無二であることや、自分一人のものではなく多くの人々の支えによって守り、育まれている尊いものであることについて考えたり、与えられた生命を一生懸命に生きることのすばらしさについて考えたりすることが大切である。自分という個の立場から、集団や社会という大きな存在に目を向けさせ、じっくりと考えさせるようにする。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童はとても素直で、教師の助言を前向きに生かせる子が多い。しかし、物事をあまり深く考えず、行動の本質的な意味を理解していないという面もある。また、特別活動などの話し合い活動に取り組む中で、自分の意見を他者に伝え、考えを深めるよさも感じてきている。

道徳科の学習としては、1学期の「おばちゃんがんばれ」の教材を通して、これまで家族から多くの愛を受けて育ってきたことや、生まれてきたこと・今生きていることは当たり前のことではないということについて学んだ。また、毎回の学習でペアでの話し合いを行い、発表が苦手な児童も自分の考えを相手に伝え、交流する中で多面的・多角的に考える習慣がついてきた。本時においても、ペアでの話し合いをもとに自分の考えを深める活動を取り入れ、ねらいとする道徳的価値に迫っていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公のゆうちゃんが、おじいちゃんから人生について語られる物語である。おじいちゃんは、人生を一本の道に例え、たくさんの険しい道があることや、いつかはゴールが訪れるということをゆうちゃんに優しく話す。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に問題解決的に話し合うことにする。

①ゆうちゃんが自分のむねに手を当て心臓の音を聞く場面。

ここでは、児童にも同様に胸に手を当てさせ、生きていることや、その不思議さを改めて感じさせる。

②ゆうちゃんが、おじいちゃんに残された道が短いことに気づき、それについて尋ねる場面。

ここでは、寿命が短いおじいちゃんは死をどのように考えているか、「こわい」「こわくはない」という二つの心情について二分法を用いて話し合い、考えを深めさせる。

③課題についての話し合い

ここでは、「命はだれのものか」を問い、命を大切に扱うということの本質について考える。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入 3分	1 教科書 P92に自分や家族の年齢を書き込み、命について関心をもつ。 課題 なぜ命をそまつにはいけないのだろう？	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくはまだ始まったばかり。 ・お母さんは少し進んでいる。 ・おじいちゃんはあと少し。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話合いの時間を十分にとるため、短い時間で簡潔に行う。 ・活動をもとに、命について話し合うことに関心を高める。
展開 30分	2 「わたしのいのち」の範読を聞き、考える。 (1)胸に手を当てて、心臓の音を聞いてみましょう。同じように胸の音を聞いたゆうちゃんは、どんなことを感じたでしょう。 (2)おじいちゃんに残された道はわずか。ゆうちゃんが「おじいちゃん、死ぬのってこわい？」と聞いたとしたら、何と答えるでしょう。 学び合い [補助発問] 大切なものとは、どんなものがあるのでしょうか。 (3)命はだれのものでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・不思議だな。 ・生きているってすごいな。 ・自分の胸の音を聞いて安心した。 <p>【こわくはない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうせいつかは死ぬから。 ・今まで一生懸命生きてきたから。 ・時間を大切にすればいまからでも多くのことができるから。 <p>【こわい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死んだらやり直せないから。 ・死んだ後どうなるか不安。 ・大切なものを失うから。 <p>・両親 ・兄弟 ・祖父母 ・心 ・友達 ・お気に入りのもの等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な言葉で状況を整理し、教材渡しをする。 ・話合いに集中するため、机上には教科書のみを出させるようにする。 ・自分の胸の音を聞くことで、安心して話合いに臨めるようにする。 ・児童の様子によって、意図的指名を行い、今後の話合いに弾みをもたせる。 ・考えが一通り出た後、「こわい」「こわくない」の二つに分け、自分の考えがどちらに近いか問う。また、なぜそう思うか聞くことで考えを深める。 ・児童の様子に応じて、それぞれの考えについてどう思うか、更に切り返し、考えを深める。 ・SDに留意し、ペアでの話合いを短時間で行う。 ・「家族を失いたくない」等の意見に付け足して、他に失いたくないものは何かあるか全体に切り返す。 ・第二発問での話合いをもとに考えさせるようにする。 ・自分一人で生きているのではないことを押さえる。 <p>☆本時の学習を振り返り、多くの人々の支えで生命が成り立つことを知り、与えられた命を一生懸命に生きることに考えている。(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値が少しずつ覚醒していくように意図的指名をして発表させる。
10分	3 本時の学習で学んだことや、これからの生活に生かしたいことを書く。 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のもの。 ・ご先祖や子孫になる人たち。 ・支えてくれる人たち。 ・一人で生きているわけではない。 ・多くの人に支えられて自分は生きている。 ・自分だけの考えで命を粗末に扱ってはいけない。 	
終末 2分	4 教科書 P93の相田みつをの詩を読む。		<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値の押しつけにならないように、余韻をもたせる話し方を心がける。

※SD・・・ソーシャルディスタンス

5 他の教育活動との関連

事前指導	理科「春の生き物」「夏の生き物」
特別活動	自分の生活を支えている学級の友達や地域の方、家族に感謝し、関わられるよう指導する。
道徳科	「おばちゃん、がんばれ」「えがおのクリニック」
事後指導	翌日に本時のふりかえりを紹介し、教室に掲示して持続的に考えていけるようにする。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

・生命の尊さについて多面的・多角的に考え、立場を明確にしながらかし合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

・生命の尊さの様々な側面について自分との関わりで考えている。

第〇回 わたしのいのち

おじいちゃん 「むねに手を当てて」「らん」
ゆうちゃん ドクドクドク

・ふしぎだな
・生きているってすごい
・生きていて安心

場面絵①

場面絵②

おじいちゃんに残された道はわずか。

「おじいちゃん、死ぬのって・・・」

こわい

こわくない

・命はやり直せない。

・今まで一生懸命きました。

・どうなるか分からない。

・どうせいつかは死ぬ。

・大切なものをうしなう。

・まだまだこれから生きていくから。

課：なぜ命をそまつにはいけない？

場面絵③

命はだれのもの？

- ・自分
- ・ご先祖様
- ・未来の子ども達
- ・支えてくれている人たち。